

第34回

高知市

都市美 デザイン賞

Kochi City
Scenery Design Award



2018 受賞

こころ豊かな景観を創り出すために

Kochi City Scenery Design Award

都市美とは・・・

「都市美」というと、造形的に美しい街並みを想像しがちですが、私たちの心に豊かさを与えてくれる自然、人の心づかいとふれあいのある風景も「まちの美しさ」のひとつではないでしょうか。

建築物、街並み、みどりや水辺などの自然環境と歴史、文化、優しさ、親しみなどの快適さを地域に調和させて美しく親しまれる都市景観、個性的で魅力ある都市空間を「都市美」と定義し、それを創造し、再生し、守っていきたいと考えています。

～選考を終えて～

平成最後となった今年度の都市美デザイン賞の応募は22通あり、審査物件が12件であった。その内訳は一般建築部門が9件、住宅建築部門が3件であり、テーマ部門（橋梁、広告物、工作物等の建築物以外の構造物）と街並み・まちづくり部門は応募がなかった。

選考の方法は、例年7月に一次審査（書類審査）を実施して部門ごとに5件程度を候補とし、8月の二次審査（現地調査）では部門ごとに入賞2件以内および特賞1件以内を選考していた。今年度は前年度に引き続いて一次審査を割愛し、8月にすべての審査物件の現地調査を実施して部門ごとを選考をおこなった。

一般建築部門は、平成30年7月24日に開館した「新図書館等複合施設 オーテピア」が受賞した。オーテピアは中央地区の商業地域に建ち、5階建（建築基準法上は地上9階・地下1階）、最高高さが31.5mである。外観は落ち着いた色彩で、壁面を分割して周辺環境との調和を図り、4階以上は北面をセットバックして威圧感を軽減し、街並みへの配慮がなされ、優れた景観を創出している。

住宅建築部門は、受賞なしであった。審査物件は現地審査に臨み、受賞の可能性を真摯に議論したが総意を得られず、選考基準のいずれかに該当しないという最終判断を下した。かつて一般建築部門では第24回（2008）に受賞がなく、住宅建築部門は初めてのことになった。今回はまさに苦渋の選択を強いられ、たいへん残念な選考結果となったが、次回以降も都市美デザイン賞にふさわしい応募物件の自薦または他薦をお願いする次第である。

特賞は、今回も含めて19年間該当なしのままである。新年号の時代において特賞の選定を是非とも期待したい。

高知市景観審議会 会長 三浦 要一

過去5年間の受賞一覧

実施回 (実施年)	受賞物件名
第29回 (2013)	竹林寺めぐりのもり霊廟 高知電気ビル 星窓の家 昭和町の家
第30回 (2014)	モデルショップヨシオカ 北村商事本社ビル 文化を継ぐ家 町に佇む白い家
第31回 (2015)	ちより街テラス（増築工事） 角地の家
第32回 (2016)	織田歯科医院 高台の家 近森病院・近森リハビリテーション病院周辺の街並み
第33回 (2017)	高知県自治会館 静寂の家

- 建築主…高知県
- 設計者…佐藤総合計画・ライト岡田設計設計業務共同企業体
- 施工者…大成・ミタニ・有生特定建設工事共同企業体



評

平成30年7月24日に高知図書館（高知県立図書館と高知市立市民図書館本館の合築）、高知声と点字の図書館、高知みらい科学館の複合施設として「オーテピア」が開館した。敷地は旧高知市立追手前小学校跡地にあたり、北側は高知城南東の正門の追手門から東へつらぬく表通りの追手筋に面し、東側は中の橋通りに接し、南の帯屋町アーケードへアクセスを可能にし、にぎわいをつくるように工夫された配置計画である。

中央地区の商業地域に建ち、5階建（建築基準法上は地上9階・地下1階）、最高高さが31.5メートルである。構造は鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造である。外観は落ち着いた色彩で、壁面を分割して周辺環境との調和を図り、4階以上は北面をセットバックして威圧感を軽減し、街並みへの配慮がなされ、優れた景観を創出している。

高知城周辺における景観形成の基本方針は「お城の見えるまちづくり」であり、平成17年と平成18年の二度にわたって高度地区（合計45ヘクタール）が決定された。建築物の高さの最高限度は28メートルとし、高度地区では景観形成の方針と基準を定めている。本年の受賞物件は地区外の真南に位置することで届出が不用であるが、外壁は高知城下町における主要の通りである追手筋とその緑地帯に配慮した形状とし、心安らく文化的で魅力ある景観の形成に寄与している。

